

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月12日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3 4 7 0 1 0 3 5 4 4
法人名	有限会社 藤山商事
事業所名	グループホーム あい
所在地	広島市東区光町2丁目14 - 19 (電 話) 082 - 264 - 1006

評価機関名	西日本医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4 - 46 - 9
訪問調査日	平成19年8月9日

【情報提供票より】(19年 7月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 8 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	17人 常勤 17人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	7 階建ての 3 階 ~ 4.5 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,500 円		

(4) 利用者の概要(7月 27日現在)

利用者人数	25 名	男性	6 名	女性	19 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ワカサ・リハビリ病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広島市の中心部より車で20分程の位置にあり、近くに大型ショッピングセンターもあって利便性がある。併設の病院の医師、看護師による指示を受け、常に見守りの体制が整っていて夜の緊急時にも安心感がある。特殊浴槽があり、身体の不自由な方にとっても、ゆったりと入浴を楽しむことができる。リハビリもあり、どちらかといえば病院の機能が濃いホームであるといえよう。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	日中もパジャマで過ごす人もあり、出来るだけ昼間は服で過ごせる取り組みをされる事を望みます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は一樣にやさしく接しておられるが、もう少し話しかけの時間を取られるとよい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議を開いているメンバーは利用者の家族、町内会役員、包括支援センター職員、当施設マネージャーが出席し、ホームでの取り組み、行事等を説明している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	大きな行事は、併設の病院と合同の為、人数制限がある為、希望者全員が参加することが難しいので、工夫されることを期待します。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	買い物や散歩等、外出する機会が少ないので地域との交流が少ない様に思われる。ボランティアの受け入れや学校の職場体験等、積極的に交流されることを期待しています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりの能力、心身の状況を踏まえて、その人らしく暮らせる支援を行なっている。		地域密着型として、ホームの役割を話し合われることを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			理念について日常的に職員間で話し合うことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事である夏祭り、敬老会、クリスマス会に参加していただいている。		母体である病院と合同で行うので参加希望者が全員参加できないこともあり、ホームで開催される等、工夫されることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を開示し、皆で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員、入所者、入所者の家族、包括支援センターの職員に現状を説明して、意見の交換をしている。		町内会役員、民生委員、包括支援センターの職員に協力してもらえるところは何か、具体的に提示してみるとよい。

グループホームあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉課の方に時々来て頂いて助言してもらっている。		地域で認知症を抱えている家族もおられるので、介護教室等を開催されることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、ホームだよりを発行している。家族には面会時に近況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方は、あまり不満は言われない。		言いやすい場面を作り、改善できるところは改善されることを望みます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットあり、職員は入居者全員を支援できる様に日々フロアの担当を代わっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任の職員は先輩がついて指導している。		人材育成は必須。限られた方が研修参加されるのではなく、皆が交替で研修参加できる様に配慮されることを望みます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流はしていない。		他の事業所との交流を計り、お互い学び合い、よりサービスの質を向上させていく取り組みをされるとよい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者本人の安心と納得を大切に、馴染めるよう家族等に相談しながら出来るところからゆっくと進めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>			<p>入居者一人ひとりのこだわり苦しみ、哀しみ、喜び、楽しみを共に共感し理解しあう。</p>
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの希望、意向をよく聞き受け入れている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の機能低下防止に努め一人ひとりに合った介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化が生じた場合は本人、家族、スタッフで話し合い、介護計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院と併設しているので医療が必要となった状況においてもすぐに対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診の他、入居者の体調変化等、その都度対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りは併設の病院で対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー、個人情報の保護には、充分配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			自己決定できる場面をできるだけ作り出す工夫が必要。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けを出来る人にやってもらっている。		食事が楽しみとなるよう一緒に買い物に行ったり、作ったり、一緒に食べたりして、個々の力を活かしながら支援していく。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般浴で入浴できる方には本人の希望を取り入れている。特殊浴槽の方もゆったり入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週に一度は、レクリエーションを行っている。(歌、囲碁、トランプ) 針仕事が好きな方は、繕い物をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の方と一緒に外出されている。		近くの公園へ散歩に出かけたりドライブの機会等を作られるよう工夫されることを望みます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のベランダ側は鍵をかけないようにしている。		ホームの玄関はほとんど使用されている事がなく、看板やプランター等を置いて出入口の活用をされるとよい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成されたバランスのよい献立ができています。一日の水分も記録している。		水分をあまり摂取されていない入居者の方には工夫して水分を取れる様に支援される事を望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下は広く清潔に保たれている。		皆で寛ぐ場の居間にテレビが設置してあると、居室に閉じこもらない工夫の一策となる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にベット、タンス、テレビが設置してある。馴染みのものは自由に持ち込まれている。		